

平成29年度 第2回神戸市外国人市民会議 議事要旨

市長室国際部国際課

日時	平成30年3月20日(火) 10:00 ~ 11:30	場所	市役所4号館(危機管理センター) 1階本部員会議室
出席者	兵庫県立大学経済学部教授 陳来幸、在日本大韓民国民団兵庫県地方本部事務局長 金相英、神戸華僑総会事務局長 石鋒、一般社団法人神戸倶楽部顧問 F.E.レオンハート、ベトナム夢KOBE代表 ズオン・ゴック・ディエップ、関西ブラジル人コミュニティ代表 松原マリナ、ひょうごラテンコミュニティ 大城ロクサナ、神戸菅原奨学金奨学生同窓会 林 文勇〔敬称略〕		
	市長室国際部国際課(事務局)、市民参画推進局区政振興課、危機管理室、教育委員会学校教育課、神戸国際協力交流センター		
議事	(1) 来年度の取り組みについて(事務局、区政振興課) (2) 防災アプリ全市版の運用について(危機管理室) (3) 外国人児童生徒に対する取り組みについて(教育委員会学校教育課)		

1. 開会

2. 議事

(1) 来年度の取り組みについて

(担当課より資料に沿って説明。)

事務局) ベトナム人留学生の急増に伴い、来年度は在住外国人に対してよりわかりやすい生活情報等の発信、地域コミュニティとともに考える多文化共生の取り組みを行う予定である。ご意見をお伺いしたい。

区政振興課) 各区役所において、転入時にウェルカム封筒をお渡ししており、外国人の方には多言語化したものや、神戸国際コミュニティセンターの案内などを同封している。このウェルカム封筒に加えたほうがよい資料があるのか、またタブレット端末を導入して新しいサービスを行ったほうがよいのかなどを現在検討しているところであり、ご意見をお伺いしたい。ご意見を踏まえて、改善策を検討していきたい。

委員) ウェルカム封筒はよい制度だと思うが、まずどこに電話したらよいかというのがわかりにくい。区役所ではなく、神戸コミュニティセンターが最初の窓口になるということでのよいのか。それであれば、もっとわかりやすく案内したほうがよい。

事務局) どんなことであってもまずは神戸国際コミュニティセンターに連絡をしてほしい、という案内をしている。わかりやすく案内できるように、ご意見を参考にさせていただきたい。

委員) 区役所に直接行った場合は、多言語対応してもらえるということでのよいのか。

事務局) 三者通話というサービスを行っている。区役所で利用の案内ができる。

委員) その場でできるのか。予約はあるのか。

事務局) 三者通話はその場で対応できる。同行通訳は、事前予約が必要である。

委員) 三者通話があることを知ると安心感があると思う。ウェルカム封筒でもっとわかりやすく案内すべきだと思う。

委員) 話が変わるが、中長期間滞在者の在留期間の更新時の情報については、自治体も把握してほしい。

座長) ベトナム人の急増により来年度の取り組みについて説明があったが、なにか意見はないか。

委員) 日本語学校もたくさんあり、入学式も年に何回かあるため、毎回同じことを説明するのは大変。字幕付きの動画をつくり、日本語学校やコミュニティに共有してもらうのはどうか。日本のマナーに関する動画をつくってもらったら効果的だと思う。また、健康保険料についても、ベトナム人は誰でも一定であるのに、日本は収入によって金額が異なる。学生は2年目以降の健康保険料が高くなり、払えなくなる。いくら収入があるといくら保険料になるかわかるような説明をしてほしい。

事務局) 先日、日本語学校の関係者を集めた行政情報等説明会を行った。いただいたご意見を参考にしていきたい。

(2) 防災アプリ全市版の運用について
(危機管理室より資料に沿って説明。)

危機管理室) 中央区で開発した「かもめん Navi」を防災機能に特化・拡充し、全市版にリニューアルした防災スマートフォンアプリケーション「KOBE そなえとう」ができる。ぜひ在住外国人の方にも利用していただきたい。前回説明した「ひょうご防災ネット」は、災害時にプッシュ配信されるものであるが、「KOBE そなえとう」は日ごろから災害時に役立つ情報を提供し、防災意識を高めていただくことを目的にしている。

委員) 言語を増やしてほしい。

委員) このアプリは英語、中国語、韓国語に対応しているということであるが、私が知っている中国人や韓国人の方は日本語が上手な方が多い。どちらかという、ベトナムや南米の人のニーズのほうが高いのではないかと考えている。中国人コミュニティの方はみんな話せるのではないのか。

委員) コミュニティ(華僑総会)でいえば、確かに日本語が話せる方ばかりであるが、ニューカマーの人は必ずしも日本語が話せるわけではない。

委員) やさしい日本語も活用したらよいと思う。

委員) このアプリができると「かもめん Navi」は使えなくなるということか。

危機管理室) すぐに「かもめん Navi」が使えなくなるということではなく、当面の間は並行期間を設ける予定である。ゆくゆくは、統合することになる。

委員) 平成 30 年 3 月に配信予定であるが、いつ配信されるのか。

危機管理室) まもなく配信される。

委員) 今月のことなので、「かもめん Navi」のお知らせにも載せるべきではないのか。

危機管理室) そういうことも含めて現在作業を進めている。

(3) 外国人児童に対する取り組みについて
(学校教育課より資料に沿って説明。)

座長) みなさん関心の高い議題だと思う。なにか意見はあるのか。

委員) 就学支援ガイダンスの案内は日本語のみなのか。

学校教育課) 日本語、ベトナム語、フィリピン語、スペイン語、ポルトガル語、インドネシア語、中国語、英語、韓国朝鮮語の 9 ヶ言語で作成している。

委員) 日本語だけであると、親が読めない。また、子どもは親に届けなかつたりする。最近よく相談をうけるのは、高校進学についてである。小学校・中学校はお金がかからないのに、高校になっていきなりかかるようになるので、親がお金を準備できていない場合がある。もう少し早く情報を伝えて、親が準備できるようにしたほうがよい。

学校教育課) 中学 3 年生では遅いので、小学校にも案内を出している。7 月末に就学支援ガイダンスが開催されるが、各学校において 7 月上旬に三者懇談がある。その際にも案内してもらう予定である。

委員) FM わいわいでベトナム語のラジオ番組を持っている。ぜひ宣伝したいので、情報がほしい。収録日が限られているので、早めに情報がほしい。

委員) スペイン語の番組も毎週水曜日にやっており、冊子も毎月発行している。宣伝できるので、ぜひ情報をいただきたい。

教育課) 宣伝していただけるのは、大変ありがたい。こちらとしてもお願いしたい。

委員) JSL 教室について、違う小学校の子が同じ授業をうけることはできるのか。

学校教育課) 小学校に関しては、授業中に取り出しで日本語指導を受けているので、同じ学校内でしか受けさせることができない。放課後であれば、可能であるかもしれないが、現状は授業中に行っている。

委員) 月に 2 回のサポーターの派遣は意味がないと思う。週 4 回であっても内容を考えないといけない。子どもは 1 年間いれば勝手に日本語が話せる・文章が書けるようになると思われているが、それはとても難しいことである。家に帰ったら、母語を話している。中途半端にならないことが大事。サポーターは言語ができるからサポーターということではない。サポーターに対する指導を教育委員会が行うべき。

学校教育課) 確かに、日本語で会話ができていいるから大丈夫だと安心する先生も多い。そういった意識を大切にしないといけないと思っている。

委員) 週 4 回を半年ではなく、もっと長く実施してほしい。また、親に対しても最初にきちんと日本の

学校についての制度・習慣を伝えるのが大切である。ある国では宿題がないので、親としても宿題を確認できない。

委員) サポーターについてだが、違う学校に通っていたら1人ずつつくのに、同じ学校に同じ国籍の児童が数人に転入してきたら、1人の先生が全員を見ることになる。不公平感がある。

学校教育課) マンツーマンでサポーターがつけられたらよいが、予算の関係で、同じ先生の回数を増やすことで対応していることもある。我々としても問題意識はある。

委員) 予算のことも理解できるが、子どもたちがかわいそうである。もうちょっと工夫してほしい。学校に楽しく行くことが大切である。

座長) 神戸に来ていただいた外国人の方が神戸に定住していただき、活躍してもらうことはとても大切なことなので、検討いただきたい。

以上